



コーちゃん・オーちゃんの 「見つけた！豊岡元気人」



エヒメ(左)を撮影する滝下さん



せいよ
西予市でのコウノトリ交流写真展



滝下さん撮影のエヒメ

野生コウノトリの「エヒメ」を

カメラで追っかける元気人

野生コウノトリ「エヒメ」が市内に飛来してからほぼ毎日、「エヒメ」を専門に写真撮影を続けている元気な男性を紹介します。

滝下房夫さん(76歳)下陰

野生コウノトリに

魅せられて

「あそこにエヒメがいるよ」と話すのは、野生コウノトリの「エヒメ」を追って写真撮影を続けている滝下房夫さん。

エヒメは、平成18年5月に愛媛県から飛来した野生コウノトリであることから、市内では、そう呼ばれています。

滝下さんは、仕事を退職後の平成14年、野生コウノトリのハチゴロウが市内に飛来したとき、望遠レンズのカメラを購入し、10人以上のカメラマンと一緒に、最初は県立コウノトリの郷公園のコウノトリを、平成17年からは放鳥コウノトリの撮影を始めました。そんな中、エヒメが飛来し、ハチゴロウが平成19年に亡くなりました。

滝下さんは「コウノトリはたくさんいますが、野生コウノトリは、識別する足輪がなく、本当の野生で美しい。エヒメの魅力にはまり、エヒメを専門に撮影しています」と話します。

写真撮影に応えるエヒメ

エヒメは、普段、県立コウ

ノトリの郷公園や野上の保護増殖センター付近にいます。そして、午後3時ごろの公園内のえさを与える時間になると現れます。そのため、

滝下さんは、車でその間を行き来し、エヒメが来るのを待っています。

「雨の日以外は毎日、郷公園に行きます。以前、近くの山の松の木にエヒメがいて、ほかのカメラマンが近寄ると逃げてしまう中、私が近づくのを待っていてくれたりするように逃げませんでした。向こうもある程度、私には安心感があるのかなと思います」と話します。

写真を現像するのが楽しみ

滝下さんは、多いときには、1日24枚撮りのフィルムを3本使ったこともあるそうです。「最初のころは、帰って現像した写真を見たら、別のコウノトリだったこともありましたが。今は間違えません。体が小さく、足が短いかな。写真を現像するのが楽しみです」と話す滝下さん。



▲野生コウノトリのエヒメを専門に写真撮影をする滝下さん

エヒメのヒナが早くみたい

エヒメは、毎年秋に愛媛県に渡ります。その愛媛県西予市から今年4月、保存会のメンバーが豊岡を訪れ、偶然、保護増殖センターで滝下さんに出会い、その後も交流が続いています。9月1日から7日までの間には、西予市で滝下さんが撮影したコウノトリの写真展が開催され、滝下さんも駆け付けました。

滝下さんは「西予市ではコウノトリが来たような大歓迎を受けました。エヒメが縁でこのような交流ができてうれしいです。早く、エヒメが卵を生んで元気なヒナを育てて、愛媛に里帰りできたらいいですね。元気が続く限り撮り続けます」と話し、夢中でエヒメを追いかけていました。

保育園に広報つーがやってきた!

20

たがわ 蓼川第二保育園 (日高)

〈園児68人〉



JR山陰本線の沿線に位置する「蓼川第二保育園」(日高町鶴岡)。

8月25日、「避難訓練」が行われましたので、その様子をのぞいてみました。

火事だ!逃げろ!!

「リッリッリッリッリッ」火災報知機のベルが鳴りました。大変です。調理室が火事です。
楽しく遊んでいた園児たちは急いで避難場所の広場へ。もちろん、靴を履いている場合では
ありません。
裸足のまま、ベル



の音が怖くて泣いている園児もいましたが、全員、きちんと逃げ出すことができました。



避難の心得「お・は・し・も」

この日は、1年に1回、消防士さんも参加して行われる訓練の日です。
園児たちの避難する姿を、5人の消防士さんが点検。2分で全員が逃げ出せたことを褒めてくれました。
そして、避難するときの大切な心得として、
①押さない、②走らない、③しゃべらない、④戻らないの4つのことを確認しました。



「お・は・し・も」と覚えれば忘れません。

ポンプ車だ!救急車だ!!

消防士さんの話が終わると、次は、園児たちもよく知っているポンプ車と救急車の見学です。

日ごろは見ることのできないポンプ車や救急車の中。「これは何に使うの」「ここは何をする所なの」などと消防士さんに聞いたり、実際に運転席に座ってみたい。訓練



のときにはこわばっていた園児の表情も自然とほころびました。



先生たちも頑張ります!

先生たちも、園児に負けなように訓練を頑張りました。火元を素早く消すために、消火器の使い方をきちんと学び、これでいざというときも大丈夫です。
園児も先生も一緒に頑張ってしっかりと学ぶことができました。



顔輪 笑の

ギターとカンテ(唄)にのせた情熱の踊り

『但東フラメンコサークル』(但東)

「但東フラメンコサークル」は、その名の通り、フラメンコを愛好するサークルです。

平成15年5月の設立以来、但東芸能発表会へ毎年参加するほか、平成17年の「第3回コウノトリ未来・国際かいぎ」や昨年9月の「第54回全日本総合男子ソフトボール選手権大会」のアトラクション出演など、精力的に活動が続けています。

フラメンコは、スペイン南部のアンダルシア地方に伝わる踊りで、リズムや曲調によつて70種類以上があります。孤独を由来とした曲種、嘆きを表現するもの、喜びが語源のものなどさまざまで、男女の愛やそれとは反対の葛藤の踊りなど多種多様です。



▲本番さながらの練習

神戸市から但東町に

きた、サークルの指導・代表者の浅川綾乃さん(但東町相田)は、「舞台衣裳にあこがれ、フラメンコ



▲踊り終わると拍手喝采

サークルの扉をたたく人もあります。上半身の優雅な動きとはうらはらに、足は複雑なコンパス(リズム)を刻みますので、難しそうですが、基本の動きを短い振り付けにして何度も繰り返し、レッスンするので大丈夫ですよ」と話しました。

毎週水曜日午後7時30分から9時まで合橋地区公民館(但東町出合)で、練習しています。見学・体験もできますので、気軽にお越しください。「オーレ!」問合せは、浅川さんまで。☎54-11018